

## 黒潮大蛇行に関連する漁海況の特異現象（三重県）

対象期間：2004年8月～2005年4月

### （1）漁況

- ・浮魚類の漁況が全般に低調。2004年8月～2005年3月の熊野灘主要2港（錦・紀伊長島港）における中型まき網による浮魚5種（マイワシ、カタクチイワシ、ウルメイワシ、サバ類、マアジ）総漁獲量は2,053トンで、前年同期（4,111トン）の約50%、平年値（1975-2003年平均、5,578トン）の約37%と低調に推移している。
- ・とりわけカタクチイワシの不漁は顕著。2004年8月～2005年3月の熊野灘主要4港（贄浦・奈屋浦・錦・紀伊長島）における中型まき網による総漁獲量は759トンで、前年同期（9,885トン）の約8%にとどまった。ここ数年、1～3月期に体長12～14cmの成魚大型群が来遊し、高水準の漁獲があったが、今期はゴマサバに時折混獲される程度で低調に推移した。
- ・その中で、ゴマサバのみ比較的好調。2004年級群を主体に好漁が続いている。2004年8月～2005年3月の熊野灘主要4港（贄浦・奈屋浦・錦・紀伊長島）における中型まき網による総漁獲量は9,692トンで、前年同期（8,052トン）をやや上回った。ゴマサバについては、海況（黒潮大蛇行）以上に、2004年級群の資源豊度（かなり高い）の影響が強いと考えられる。
- ・カツオは熊野灘沿岸でほとんど漁場形成が見られていない。潮岬沖の黒潮北縁域および伊豆列島周辺海域に漁場が集中。三重県船も県外に水揚げする船が多く、県内への水揚げ量はかなり少ない。
- ・流れ藻へのサンマ卵の付着が例年になく多い（3月初旬～4月下旬の漁業調査船「あさま」による流れ藻調査時）。

### （2）海況

- ・蛇行移行期～蛇行初期に高水温、高潮位などの影響が顕著に現れた（以下の項目）が、年明け頃から黒潮内側反流の弱い状態が続き、徐々に影響は弱まっている。
- ・7月上旬～中旬、黒潮本流が熊野灘を北上する流路となり、熊野灘沿岸に黒潮系水が強く流入した。7～8日の熊野灘沿岸定線観測では、平年を2～5前後も上回る極端な高水温が観測され、50～200mでは1966年から観測している北中部の多くの測点で7月の極値を更新した。
- ・7月に黒潮が大蛇行型に移行し、熊野灘沿岸では高水温・高潮位の状態が続いた。熊野灘沿岸の潮位は通常より30～50cm程度高い異常潮位の状態が7月下旬～11月上旬まで持続した。
- ・8月10～11日、熊野灘沿岸定線観測における高水温。50～200mでは観測史上8月としては最高水温を更新した測点が多く、7月に引き続き記録的な高水温であった。黒潮本流は熊野灘から大きく離れ、黒潮内側反流が強く流入していたため、7月とは反対に南向きの流れであった。

### （3）報告機関

三重県科学技術振興センター 水産研究部  
〒517-0404 三重県志摩市浜島町浜島 3564-3  
TEL 0599-53-0016  
FAX 0599-53-2225